

# 【D部門】

誰もが「生ききった！」と思える社会へ

助成団体

慶應義塾大学 井庭崇研究室



**be Orange**



# 活動の様子

# | 活動内容

本研究では、2018年4月～2019年11月の期間で、介護分野のイノベーターが日々の実践で何を大切にし、何を行っているのかを探究した。

そして、そこでの共通パターンを、小さな単位でまとめ、数十の要素からなる体系となる、パターン・ランゲージの形式で表現した。

その後、2019年11月～12月の期間に、佐賀県、広島県、兵庫県、宮城県の9箇所介護現場のスタッフを対象に『ともに生きることば』を用いた対話ワークショップを実施した。

対話のワークショップでは、1セッションあたり30分で、3～5名のグループで実施した。『ともに生きることば』の冊子と全てのパターンを一覧できるように一部内容を抜粋したカードを用いて、対話ワークショップを実施した。

# | ワークショップ開催介護施設

- 看護付き小規模多機能むく（佐賀県唐津市）
- FREE HOUSEゆずの輪（広島県福山市）
- グループホームゆずっこ向島（広島県尾道市）
- グループホームみなりっこ（広島県尾道市）
- グループホーム鞆の浦さくらホーム（広島県福山市）
- グループホームゆずっこ高西（広島県福山市）
- のんびりデイサービス桜の里（広島県福山市）
- 介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」（兵庫県神戸市）
- 多世代複合施設アンダンチ（宮城県仙台市）

# ｜活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

10代～60代の計68名から得たフィードバックをもとに、本研究で指摘した介護実践者が現場で抱える課題である「よい実践について語る難しさ」「多職種間における対話の難しさ」「自分なりのよい支援をつくる難しさ」を全てカバーできる支援ツールになりうることを示唆された。

フィードバックはあくまでも、一部の介護実践者からのものであり、今後フューチャーワークとして、より多くの介護現場に導入していくための方法を検討していく必要がある。

# | 助成金の使用実績

助成額：500,000円

国内旅費宿泊費・・・379,036円（飛行機代、新幹線代、宿泊費）

国外旅費宿泊費・・・19,986円（電車代、宿泊費）

図書費・・・・・・・・・・14,790円

消耗品・・・・・・・・・・48,720円（システム代）

合計・・・・・・・・・・462,532円